

I 認定教科書・市販図書等の使用状況

1. 認定教科書・市販図書等の使用状況調査の実施

(1) 調査の目的及び調査対象施設

この調査は、労働省の要請により都道府県立職業能力開発施設（以下「施設」という）のうち、平成10年4月現在開講中の普通課程を設置している施設を対象に、普通課程における各専攻科の認定教科書・市販図書・自作教材（以下「教科書等」という）の使用実態を把握し、職業訓練用教科書（改定・作成）計画の基礎資料を得ることと、新しい教材情報を施設等に提供することを目的として実施したものである。

(2) 調査の内容

調査の内容は、教科書等の使用冊数や、認定教科書並びに市販図書（以下「教科書」という）の購入価格等と、各専攻科で使用している教科書がどの科目に使用されているのか、その教科書ごとの使用形態等について調査した。

(3) 調査の時期

平成10年6月～同年7月

(4) 調査票の回収

調査票は、調査対象施設198施設に調査票を送付し、全調査対象施設から回答を得た。

2. 認定教科書・市販図書等の使用状況調査結果の概要

(1) 施設における普通課程の設置状況

職業能力開発促進法の訓練基準で普通課程の普通職業訓練（新規則第十条、別表第二関係）は、平成10年に職業能力開発促進法施行規則の一部が改正（平成10年労働省令11号）され、現在、訓練系57系、専攻科141科と定められている。平成10年4月現在、調査対象施設において設置されている訓練系・専攻科は、図1のとおり33訓練系・56専攻科（以下「設置専攻科」という）で、訓練基準に定められた141専攻科に対する設置比率は39.7%である。設置専攻科で、教科書のうち、認定教科書を使用している該当専攻科は40科（設置専攻科に対する使用比率71.4%）で、当該専攻科に該当する訓練系は、24系である。また、市販図書を使用している該当専攻科は55科

(設置専攻科に対する使用比率98.2%)で、当該専攻科に該当する訓練系は32系である。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[3]「専攻科別教科書等の使用状況一覧」及び参考資料[6]「専攻科(普通課程の普通職業訓練)の設置状況一覧」を参照されたい。

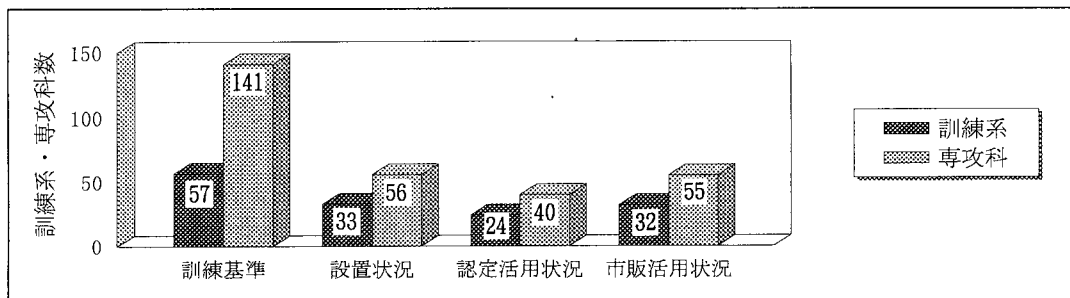


図1：訓練基準に対する専攻科設置状況及び教科書の使用状況

(2) 教科書等の使用形態

施設における教科書等の使用形態は図2のとおり、認定教科書と市販図書を併用している専攻科が最も多く、48.0%を占めている。次に認定教科書と市販図書と自作教材を併用している専攻科が15.8%を占めており、これらの使用形態で全体の約64%を占めている。

単独の使用で最も多いのが市販図書で全体の27.7%を占めているが、前回の調査結果(14.9%)と比較してみると、前回より市販図書の単独使用は約2倍に増えている。(注)前回の調査：平成7年度実施(以下、同様である)。

認定教科書だけ使用している専攻科の比率は、僅か1.8%に留まっている。

前回の調査結果で、認定教科書の単独使用は3.8%であり、前回よりも更に認定教科書の単独使用は減少してきている。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[2]「専攻科別教科書等の使用形態一覧」を参照されたい

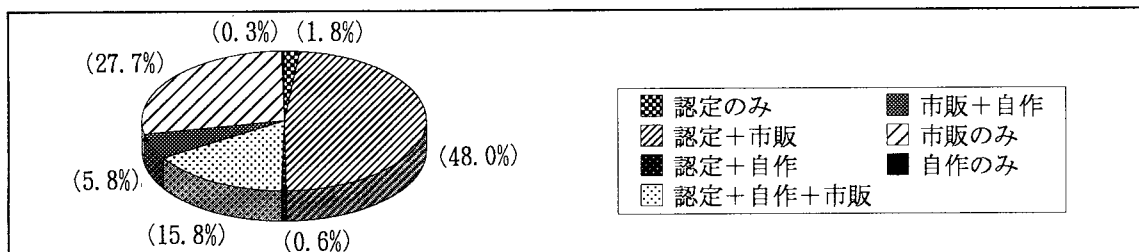


図2：教科書等の使用形態

(3) 教科書等の種類別使用状況

教科書等の種類別使用状況は図3のとおりである。認定教科書の使用は、延622専攻科（以下「全専攻科」という）のうち410専攻科で使用されており、使用率は65.9%である。しかし、認定教科書を全く使用していない専攻科が212専攻科あり、全専攻科の34.1%を占めている。

次に市販図書の使用は、全専攻科のうち597専攻科で使用されており、使用率は96.0%と非常に高く、殆どの専攻科で使用されている。

自作教材の使用は、全専攻科のうち140専攻科で作成・使用されており、使用率は22.5%と教科書の使用率に比べて低いが、20%以上の専攻科で作成・使用されている。

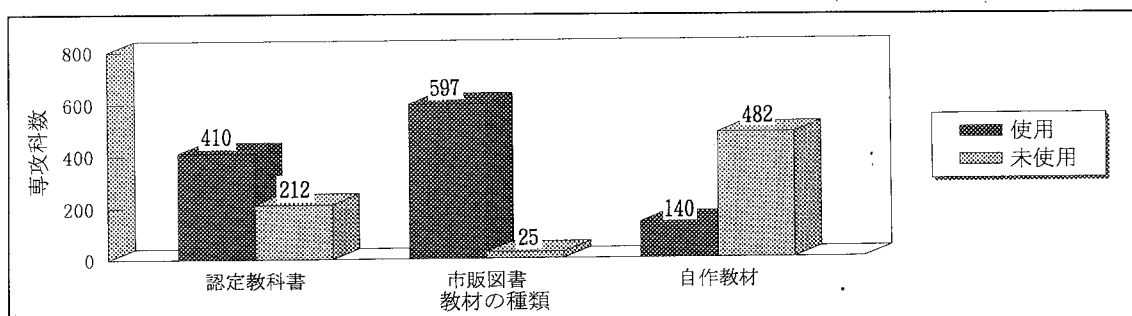


図3：教科書等の種類別使用状況

全専攻科：622科

認定教科書を主に使用している専攻科別の使用状況は、図4のとおりである。

認定教科書を最も多く使用している各専攻科の使用状況は、機械加工科（設置科数35）のなかでは14冊、次に精密加工科（設置科数16）・電気工事科（設置科数53）・配管科（設置科数14）・メカトロニクス科（設置科数20）のなかでは各13冊、塑性加工科（設置科数15）・インテリア・サービス科（設置科数11）のなかでは各11冊、構造物鉄工科（設置科数5）・電気機器科（設置科数7）のなかでは各10冊、溶接科（設置科数10）・第二種自動車整備科（設置科数66）・建設機械整備科（設置科数5）・木工科（設置科数16）・木造建築科（設置科数45）のなかでは各9冊使用している（以下省略）。

これらの専攻科（メカトロニクス科・インテリア・サービス科を除く）で使用できる認定教科書は、概ね全教科目に対応しているが、当該専攻科のなかには、市販図書を主として使用している専攻科もある。例えば、機械加工科や精密加工科のなかには、認定教科書を2冊しか使用していなかったり、電気工事科や木造建築科のなかには、認定教科書を1冊も使用していない専攻科もある。

専攻科別認定教科書の平均使用状況をみると、平均の使用数が最も多い

のが、機械加工科で平均 9.3 冊である。次に精密加工科 7.7 冊、木工科 7.3 冊、電気工事科 7.1 冊の順である。平均で 6 冊以上使用している専攻科は、塑性加工科 6.6 冊、溶接科 6.1 冊、構造物鉄工科 6.6 冊、木造建築科 6.3 冊、左官・タイル施工科 6.3 冊、建築塗装科 6.0 冊の 6 専攻科である。その他の専攻科は 5 冊以下である（以下省略）。

一部の専攻科を除いて殆どの専攻科については、教科目を教える認定教科書が全くなかったり、あるいは一部の教科目を教える認定教科書しかないのが実状である。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料 [3] 「専攻科別教科書等の使用状況一覧」を参照のこと。

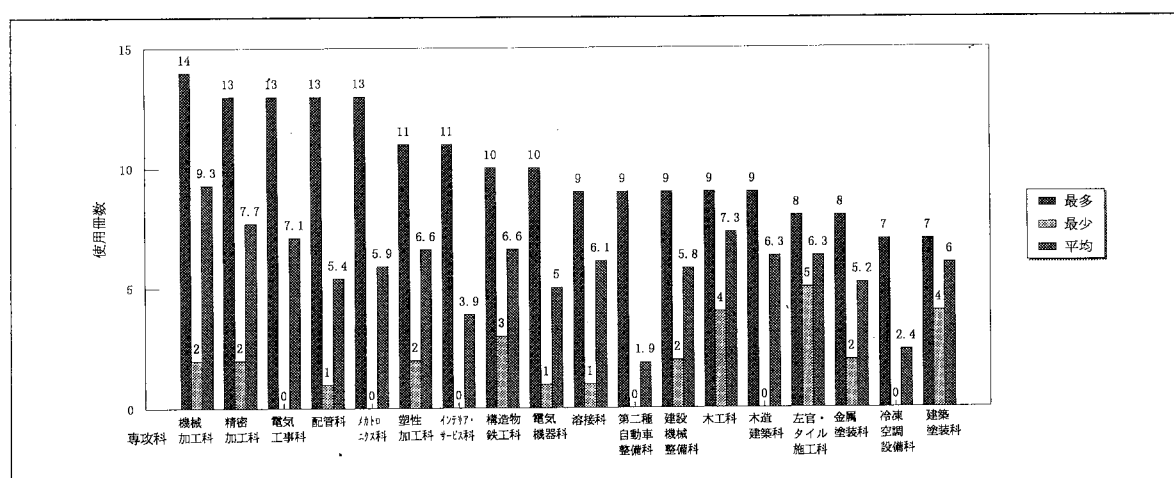


図 4 専攻科別の認定教科書の使用状況

次に市販図書を主に使用している各専攻科別の使用状況は、図 5 のとおりである。

市販図書を最も多く使用している各専攻科別の使用状況は、第二種自動車整備科(設置科数 6 6 科)のなかでは 3 4 冊、O A 事務科(設置科数 4 4)のなかでは 3 3 冊、コンピュータ制御科(設置科数 2 7)のなかでは 3 2 冊、電気通信科(設置科数 2)・システム設計科(設置科数 1 9)のなかでは各 3 0 冊使用している。

その他の専攻科で 2 0 冊以上の市販図書を使用している該当専攻科は、精密加工科(設置科数 1 6)のなかでは 2 0 冊、第一種自動車整備科(設置科数 2 3)のなかでは 2 0 冊、経理事務科(設置科数 4)のなかでは 2 4 冊、美容科(設置科数 7)のなかでは 2 2 冊、メカトロニクス科(設置科数 2 0)のなかでは 2 8 冊使用している（以下省略）。

次に専攻科別市販図書の平均使用状況を見てみると、平均の使用数が最も多

い専攻科は、電気通信科で平均23.5冊、次に第二種自動車整備科で平均16.5冊、経理事務科16.3冊、OA事務科15.4冊、システム設計科14.3冊、メカトロニクス科13.3冊、観光ビジネス科13.0冊の順である。平均で10冊以上使用している専攻科は、コンピュータ制御科11.1冊、第一種自動車整備科10.9冊、建築設計科10.6冊、冷凍空調設備科10.8冊、理容科10.8冊、美容科12.6冊、OAシステム科11.6冊、プログラム設計科12.0冊の8専攻科である（以下省略）。

なお、集計の詳細は、別添参考資料〔3〕「専攻科別教科書等の使用状況一覧」を参照のこと。

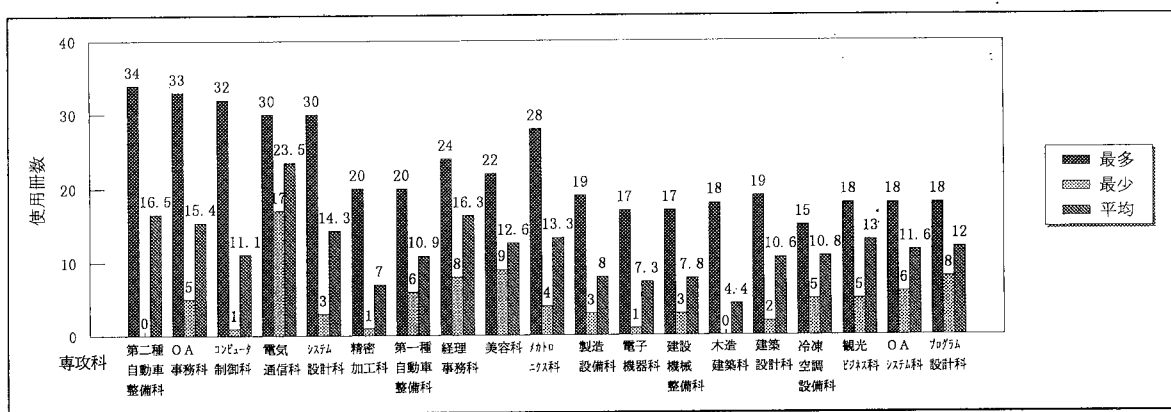


図5 専攻科別の市販図書の使用状況

次に教科書を併用している各専攻科のうち、比較的 average 使用数が多い専攻科を列挙すると、図6のとおりである。電気通信科が average 使用数が24冊（認定0.5，市販23.5）で最も多く、次にメカトロニクス科が average 19.2冊（認定5.9，市販13.3）、第二種自動車整備科が average 18.4冊（認定1.9，市販16.5）、経理事務科が average 16.6冊（認定0.3，市販16.3）、OA事務科が average 15.6冊（認定0.2，市販15.4）の順である（以下省略）。

教科書の使用比率は、図6のとおり一部の専攻科を除いて認定教科書よりも市販図書のほうが高い。

併用の average で認定教科書が市販図書を上回っているのは、機械加工科13.0冊（認定9.3，市販3.7）で、認定教科書の使用比率が非常に高い。そして精密加工科14.7冊（認定7.7，市販7.0）と電気工事科12.3冊（認定7.1，市販5.2）も認定教科書が市販図書の使用比率を少し上回っているが、認定教科書が整備されている建設機械整備科13.6冊（認定5.8，市販7.8）、第一種自動車整備科12.7冊（認定1.8，市販10.9）、第二種自動車整備科18.4

(認定1.9,市販16.5)などは、市販図書の使用比率が認定教科書よりもむしろ高い結果となっている。ただし、第一種・第二種自動車整備科が使用している認定教科書は、認定教科書の代替となる市販図書が十分あるので、認定教科書の改訂を行っていない。そのため、認定教科書の内容が陳腐化していることもあり、市販図書の使用比率が高い結果となっている。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[3]「専攻科別教科書等の使用状況一覧(5)～(6)」を参照のこと。

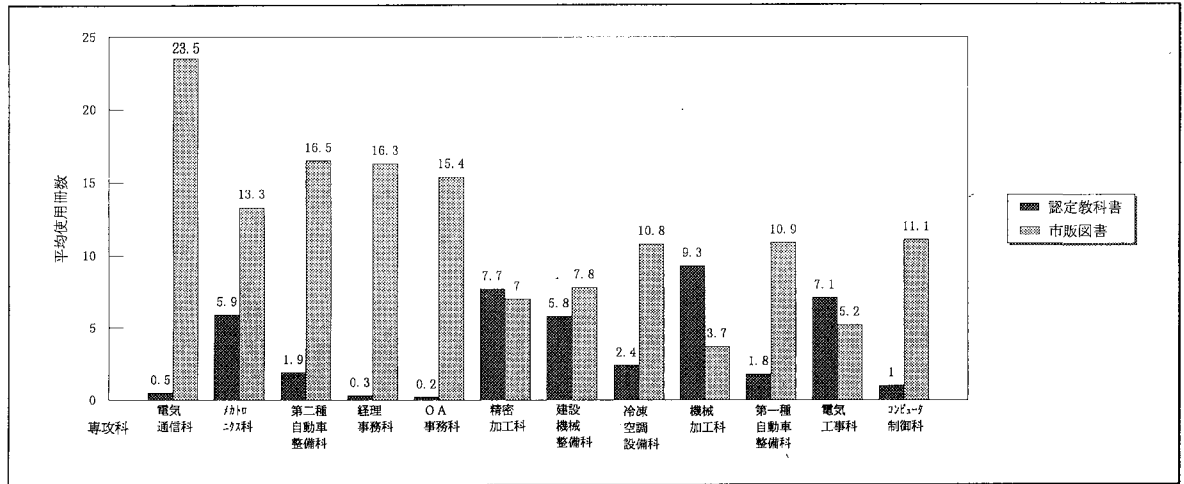


図6 専攻科別の併用教科書の平均使用状況

自作教材の作成・使用状況をみると、自作教材を作成している該当専攻科は37専攻科(延576専攻科)ある。そのうち延140専攻科が自作教材を作成している。図7のとおり37専攻科(延576専攻科)のうち、16専攻科(延204専攻科)では、各専攻科の30%以上が自作教材を作成している。

造園科は設置専攻科数が2科と少ないこともあるが、2科とも自作教材を作成している。それ以外の専攻科で設置科数の半数以上が自作教材を作成しているのは、冷凍空調設備科、観光ビジネス科、メカトロニクス科の3科ある。

自作教材を作成している延140専攻科の平均作成数は、6.2冊である。平均作成数が10冊以上の専攻科が6科あるが、最も多いのは5冊である。

今回の調査で自作教材だけで訓練を実施している該当専攻科が2科(陶磁器製造科、製版科)あった。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[3]「専攻科別教科書等の使用状況一覧」(1)～(2)と(7)～(8)及び参考資料[6]「専攻科(普通課程の普通職業訓練)の設置状況一覧」を参照されたい。

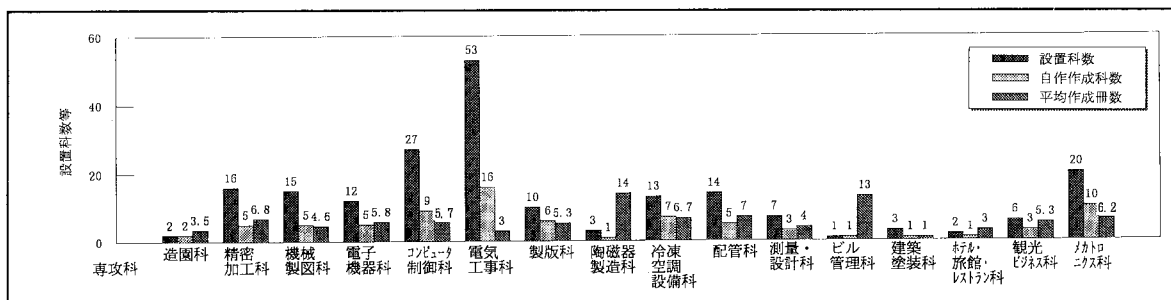


図7 自作教材の作成・使用状況 (注)平均使用冊数=自作延冊数/自作作成延科数

次に全専攻科で使用している教科書等の延使用数は、図8のとおりである。使用している教科書等の延総数は8,603冊で、その内訳は、認定教科書が2,179冊、市販図書が5,552冊、自作教材872冊である。

使用している教科書等の延総数に対し市販図書の使用比率が、64.6%を占めており、職業訓練用教材として市販図書への依存度の高さが窺える。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[3]「専攻科別教科書等の使用状況一覧」を参照されたい。

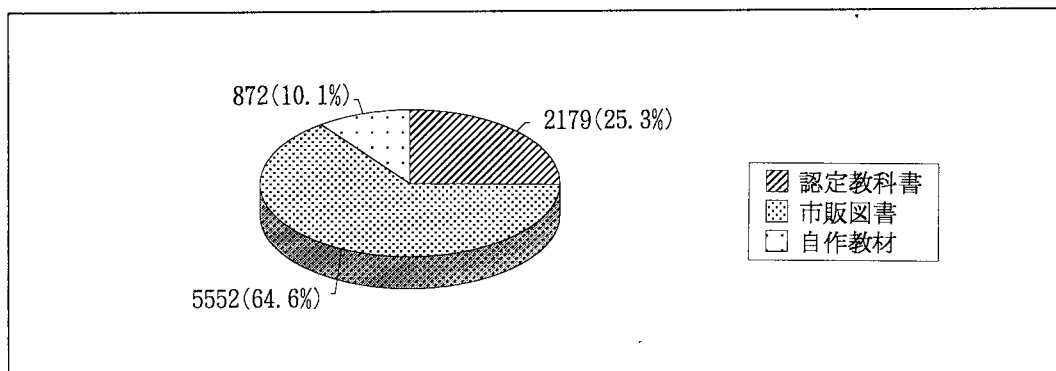


図8：教科書等の使用冊数と使用比率

(4) 教科書の購入状況

教科書の購入状況は図9のとおりである。認定教科書と市販図書を併用している場合の購入額は10,001円～15,000円が最も多く、全専攻科中168専攻科(比率27.0%)であり、次に15,001円～20,000円が118専攻科(比率19.0%)、次に20,001円～25,000円が86専攻科(比率13.8%)で、10,001円～25,000円で約60.0%を占めている。

教科書の購入額が25,001円以上の該当専攻科が延136専攻科あり、全体の21.9%を占めている。

認定教科書と市販図書の購入状況を個々にみても、購入額の比率が最も高いのが、認定教科書は2,001円～4,000円で81専攻科（比率13.0%）、市販図書は10,001円～15,000円で115専攻科（比率18.5%）ある。認定教科書の購入額は2,001円～15,000円、市販図書の購入額は、10,001円～25,000円に概ね集中しているが、教科書の購入費が70,001円を超える専攻科が3科ある。

訓練生一人当たりの教科書購入経費は、単純平均で18,988円である。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[4]「教科書別の購入額状況一覧」及び参考資料[5]「専攻科別教科書の購入額状況一覧(2)」を参照されたい。

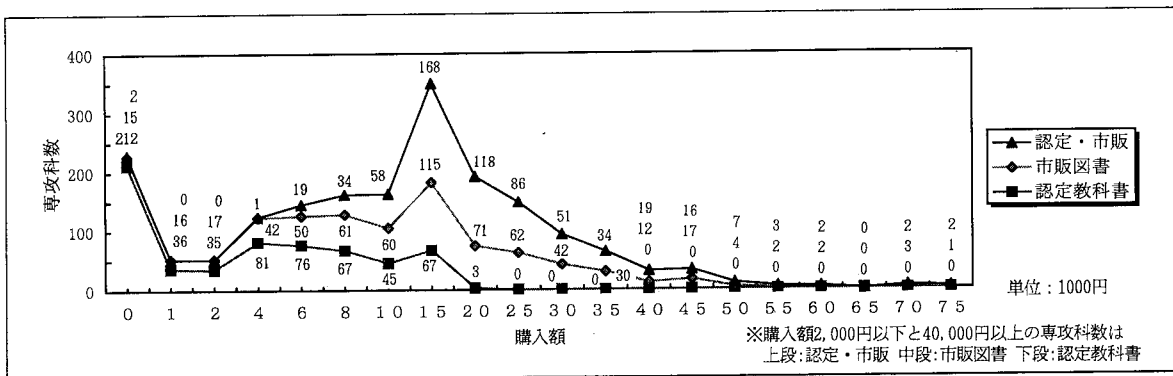


図9：教科書の購入状況

認定教科書を主に使用している各専攻科の教科書購入状況は、図10のとおりである。

認定教科書の購入額が各専攻科のなかで最も高額であった該当専攻科は、機械加工科である。

専攻科別に購入状況をみても、機械加工科(設置科数35)のなかでは17,240円(平均購入額は9,220円、最低購入額は2,020円)、電気工事科(設置科数53)のなかでは16,320円(平均購入額は8,700円、最低購入額は0円)、配管科(設置科数14)のなかでは15,800円(平均購入額は7,380円、最低購入額は820円)、精密加工科(設置科数16)のなかでは14,080円(平均購入額は7,310円、最低購入額は1,460円)、メカトロニクス科(設置科数20)のなかでは13,630円(平均購入額は5,580円、最低購入額は0円)、木工科(設置科数16)のなかでは12,840円(平均購入額は9,700円、最低購入額は6,290円)、インテリア・サービス科(設置科数11)のなかでは12,620円(平均購入額は4,820円、最

金属塗装科(設置科数6科)のなかでは11,550円(平均購入額は7,390円、最低購入額は3,710円)である。

その他の専攻科で10,000円以上の認定教科書を購入している該当専攻科は、建設機械整備科、建築塗装科、塑性加工科、電気機器科の4科である(以下省略)。

各専攻科ごとの認定教科書購入額の最高額と平均額を比較してみると、木工科、建設機械整備科、建築塗装科は、認定教科書の購入額に余り差はないが、その他の専攻科は、購入額にかなり差がある。

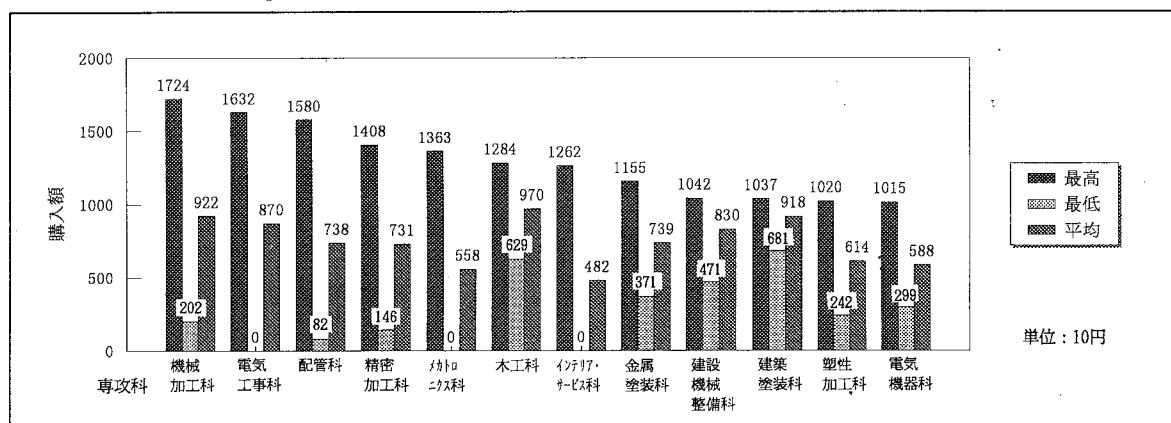


図10 各専攻科別の教科書(認定教科書)の購入状況

次に市販図書を主に使用している各専攻科の市販図書購入状況は、図11のとおりである。

市販図書の購入額が各専攻科のなかで最も高額であった該当専攻科は、システム設計科である。

専攻科別に購入状況をみると、システム設計科(設置科数19)のなかでは74,140円(平均購入額は31,900円、最低購入額は7,140円)、メカトロニクス科(設置科数20)のなかでは69,450円(平均購入額は26,290円、最低購入額は8,560円)、コンピュータ制御科(設置科数27)のなかでは68,060円(平均購入額は24,630円、最低購入額は2,420円)、電気通信科(設置科数2)のなかでは57,560円(平均購入額は55,660円、最低購入額は53,760円)、建築設計科(設置科数23)のなかでは52,610円(平均購入額は21,530円、最低購入額は3,120円)、第二種自動車整備科(設置科数66)のなかでは49,050円(平均購入額は24,320円、最低購入額は0円)、製造設備科(設置科数4)のなかでは43,120円(平均購入額は15,810円、最低購入額は4,890円)、木造建築科(設置

科数45)のなかでは43,100円(平均購入額は8,310円、最低購入額は0円)、OA事務科(設置科数44)のなかでは42,570円(平均購入額は18,610円、最低購入額は5,110円)、精密加工科(設置科数16)のなかでは37,040円(平均購入額は12,130円、最低購入額は1,370円)、プログラム設計科(設置科数5)のなかでは34,420円(平均購入額は26,540円、最低購入額は19,820円)、電子機器科(設置科数12)のなかでは34,290円(平均購入額は14,620円、最低購入額は550円)である。その他の専攻科で30,000円以上の市販図書を購入している該当専攻科は、電気機器科、第一種自動車整備科、土木施工科、観光ビジネス科、ソフトウェア管理科の5科である(以下省略)。

各専攻科ごとの市販図書購入額の最高額と平均額を比較してみると、電気通信科は設置科数が2科ということもあるが、市販図書の購入額に余り差はない。

しかし、その他の専攻科は、購入額にかなり差がある。

なお、集計結果の詳細は、別添参考資料[5]「専攻科別教科書の購入額状況一覧」を参照されたい。

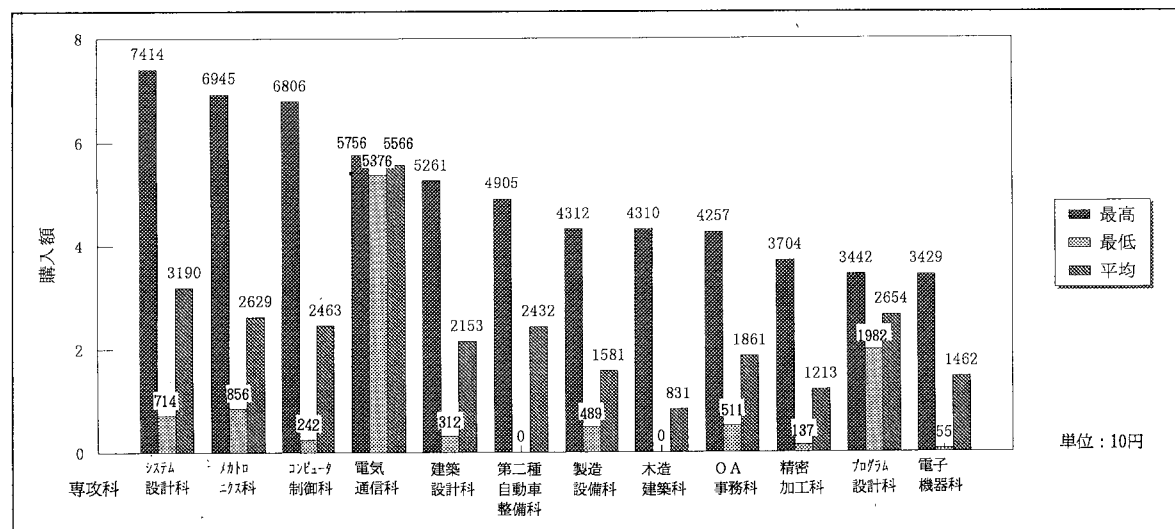


図1-1 各専攻科別の教科書(市販図書)の購入状況

次に教科書購入の経費負担の関係は、図1-2のとおりである。

教科書購入経費の全額が公費負担の施設は14施設(41専攻科)、一部公費負担する施設は15施設(46専攻科)、全額が訓練生負担の施設は169施設(533専攻科：自作教材のみの2科を除く)で、一部の施設を除いて殆どが訓練生の負担となっている。

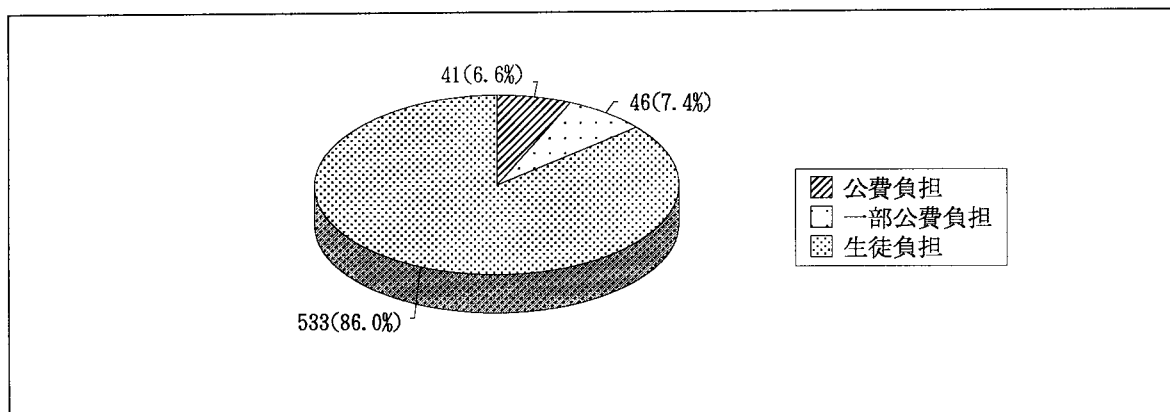


図 1 2 教科書購入経費の負担比率

3. 資料集作成の主旨と活用

(1) 教科書利用の概観

今回の教科書使用状況調査では延べ622専攻科から回答があり、その結果、使用している教科書の種類は2,076種類であった。その内訳は、認定教科書129種類(延2,179冊)、市販図書1,947種類(延5,552冊)に及んだ。また、これらの教科書を発行している出版社・団体等の数は309社であった(参考資料[8]掲載出版社の一覧を参照のこと)。

教科書等の使用状況(自作教材を除く)は、1専攻科当たり単純平均で12.5冊(前回13.9冊)使用しており、その内訳は、認定教科書3.5冊(前回5.0冊)、市販図書9.0冊(前回8.9冊)であった。市販図書の使用冊数は認定教科書の2.61倍(前回1.75倍)という結果になり、前回の調査結果と比較してみると、市販図書の使用数は、前回よりも若干増加しているが、認定教科書の使用数は減少している。

認定教科書の使用数が減少し市販図書の使用数が増加している主な要因は、①認定教科書は発刊してから改訂までの期間が長すぎる。そのため、技術革新の激しい職種に該当する専攻科は、活用できる認定教科書があっても、内容が陳腐化しがちな認定教科書よりも市販図書を活用する傾向がある。因みに今回の調査で分かったことであるが情報処理系で使用する市販図書は、前回の調査で使用していた市販図書は殆ど使用されておらず、改訂版ないしは新版の市販図書を使用している。②関係官庁から指定教習機関として指定を受けている専攻科、つまり自動車整備科や電気工事科そして理容・美容科等では、当該官庁の推薦する教材を活用する施設が多い。③使用している市販図書のなかで文部

省の高等学校用検定教科書が相当使用されている。その理由は、検定教科書には教科書の内容をどのように生徒に教えればよいか、そのための指導書が開発・作成されている。④施設では、訓練生の就職に結びつく教材（資格の取得や受験のための図書類）を相当活用している。⑤新規コースの開設などにより当該コースに活用できる認定教科書が少ない（既刊の認定教科書が、全ての専攻科の教科を教える教材として開発・作成されていない）。⑥今回の調査で回収した調査票のデータを商業出版社に照会（正確な図書名や価格等）したときに判明したことであるが、多数の商業出版社は顧客リストを作成し、新刊案内あるいは図書目録等を施設に送付したり、営業マンが活発な販売促進活動を実施している。⑦内容に関する調査結果（優れている：41.0%、普通：56.1%、他にないため：2.9%、）から、市販図書は優れている。⑧使用目的の調査結果（認定教科書との併用：7.7%、市販図書の単独使用：90.0%、無回答：2.3%）から、市販図書が単独使用されている等が挙げられる。

（２）教材情報としての資料集の役割

本資料集は、施設で使用されている延べ教科書7731冊（内訳：認定教科書2179冊、市販図書5,552冊）に関するデータを訓練系・専攻科ごとに分類し、各訓練系・専攻科でどのような教科書がどの教科目に活用されているのか一目で分かるように一覧表にまとめた。さらに、本資料集は、主たる教材である認定教科書・市販図書の活用状況を詳細に分析した。つまり教科書の内容について利用者の評価あるいは使用目的等を掲載し、施設での教材選定をより一層容易にした。また本資料集には、掲載出版社別図書一覧に教科書ごとに総合評価を示し、情報の充実に努めた。これにより本資料が教材情報としての役割を十分担うものと期待している。

（３）資料集の構成と活用

資料集は、今回の調査で回収した調査票をもとに、教科書を中心にした図書教材の使用実態を教材情報として提供できるよう、下記により分類・整理した。

- ① 訓練系・専攻科別分類
- ② 主な教科目
- ③ 教科目に対応する教科書（教材名・出版社名・著者名・価格）
- ④ 教科書の使用目的
- ⑤ 教科書の内容（評価）

この結果、調査票回答専攻科は、33訓練系・56専攻科に分類され、それぞれの訓練系・専攻科について上記①～⑤の内容をもつ一覧表が作成され、これが資料集の構成となっている。なお、一覧表の見方は、下記の4. 図書教材一覧の見方を参照されたい。

以上の構成により、資料集は、利用者が属する訓練系・専攻科の一覧表を参照することによって、教科書の情報を容易に入手することができるようになっている。

4. 図書教材一覧の見方

本資料集の一覧表の見方、注意事項は、次のとおりである。

訓練系・専攻科別に教科書を一覧表にしたもので、表形式及び各項目の記述内容は、14頁の図13のとおりである。

なお、一覧表は以下の事柄に注意して参照されたい。

- a. この一覧表には、労働省認定教科書及び市販図書が掲載されている。
- b. 文部省の検定教科書（高等学校用教科書）は、市販図書として処理をした。
- c. 図書教材の配列は、出版社名を第一優先とし、順序はアルファベット、カタカナ・ひらがな、漢字は五十音順のコード配列によっている。
- d. 図書教材名や価格等は、出版社や日本書籍総目録等で確認している。
- e. 出版社の住所等が確認できないものは、出版社一覧から削除した。
- f. 各施設が独自に設定している科目については、科目の整理ができないので、教材情報として反映させていない。
- g. 各施設から報告いただいたデータのうち、出版社等に問い合わせた結果、在庫がなく絶版になった市販図書については、削除した。
- h. 市販図書は、改訂、廃刊、値上げなどが突然行われることがある。下記事項を図書目録あるいは直接出版社に問い合わせる等により確認の上、入手等の措置を取られたい。

① 図書名

② 著作者名

③ 価格

④ 初版または改訂年度、及び今後の改廃予定

⑤ 在庫及び入手方法

- i. 出版社等の問い合わせ先は、参考資料〔8〕を参照されたい。

図13 使用している教科書の一覧表

使用している教科書の表形式

使用している教科書

回答施設数：○施設

主な教科目	教科目に対応する教科書			価格	使用目的			内容		
	図書教材名	出版社名	著作者名等		主	副	資格	A	B	C

{各項目の記述内容}

①主な教科目
 普通課程の普通職業訓練の訓練基準（新規則第十条、別表第二関係）に定められた教科目。
 なお、普通学科の科目に用いる図書教材あるいは訓練基準外であるが、全科目に活用されている図書教材については、便宜上、【全科】を設け掲載した。また、使用目的が資格で教科目が記入されていない図書教材については、【資格】に掲載した。

②図書教材
 訓練科を系・専攻に分類し、各専攻科で使用していると回答のあった教科書。

③出版社名
 ②でリストアップした教科書を発行している出版社等。

④著作者名
 ②でリストアップした教科書の著作者等。
 なお、著作者名の末尾に監あるいは編とある場合は、監は監修、編は編集を示す。

⑤定価
 ②でリストアップした教科書の定価。
 価格は、本体価格＋消費税（5%）の合計額で示す。
 なお、定価が明確でない図書は、定価欄を*印で示す。

⑥使用目的
 ②でリストアップした教科書を主目的で使用していると回答のあったものは主、副教材として使用していると回答のあったものは副、資格等の受験対策用として使用していると回答のあったものは、資格で示した。
 なお、使用目的に対し複数の回答があったものは、そのまま計上した。従って、内容欄の合計数とは必ずしも一致しない。

⑦内容
 ②でリストアップされた教科書の内容が非常に優れていると回答のあったものはA、普通であると回答のあったものはB、他に代わる教材がないのでやむを得ず使っていると回答のあったものは、Cで表示した。
 なお、紙面の関係で利用専攻科数は表示できなかったが、利用専攻科数の状況は⑦内容欄A+B+Cの合計である。